

インドネシアの金融市場

現状と今後の見通し

ご参考資料 2014年7月4日

インドネシアの金融市場は、7月9日に予定されている大統領選を巡る不透明感や、イラク情勢の緊迫化を背景とした原油価格の高騰などから、足元で上値の重い展開が続いています。一方で、年初来で見ると、インドネシアの株式市場と通貨ルピアは、他の新興国や先進国と比較して堅調に推移しており、債券市場へは外国人投資家の資金流入が継続しています。インドネシアの金融市場の現状と今後の見通しについてご説明します。

インドネシアの株式市場： 足元軟調ながらも年初来で高い上昇率

インドネシア株式市場は、現地通貨ベースで年初来好調な推移となっていますが、6月以降は上値の重い展開が続いています。6月2日に発表された4月の貿易収支が市場の予想を大幅に上回る赤字になったことや、イラク情勢の緊迫化による原油価格の高騰を背景にルピア売りの圧力が強まったことなどが要因と考えられています。また、7月9日に投票が予定されている大統領選挙で、闘争民主党的ジョコ・ウィドド（通称ジョコウィ）氏とグリンドラ党のプラボウォ・スビアント氏による接戦が予想されており、選挙を巡る不透明感が広がる中、外国人投資家の資金流出の動きも見られています。

原油高の影響は限定的に留まる見込み

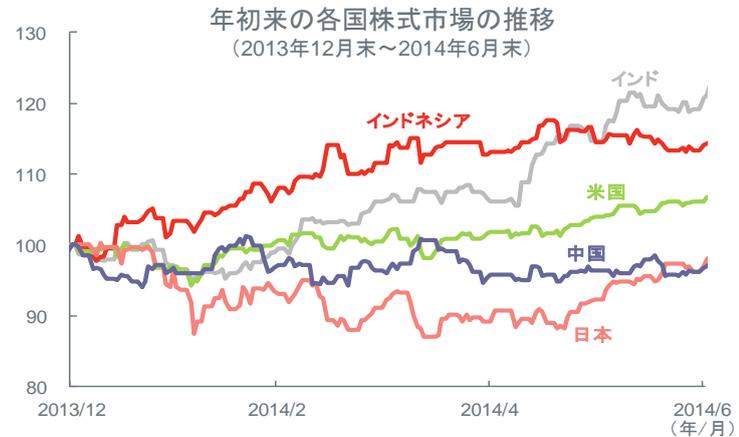
原油高による輸入コストの上昇によって、経常収支の悪化や燃料補助金の支出増加による財政収支の悪化などの悪影響も考えられます。原油価格が1バレル当たり10米ドル上昇すると、インドネシアの実質国内総生産(GDP)成長率は約0.2%押し下げられると想定されます。しかし、イラクの原油生産量が世界全体に占める割合が低いことや、米国における在庫の余剰や原油以外の代替エネルギーへの移行などが見られることから、原油価格の高騰を要因としたインドネシア金融市場への影響は限定的に留まると考えられ、中長期的には下落局面が投資の好機になると見えています。

マクロ経済環境：貿易収支の改善とインフレの鈍化

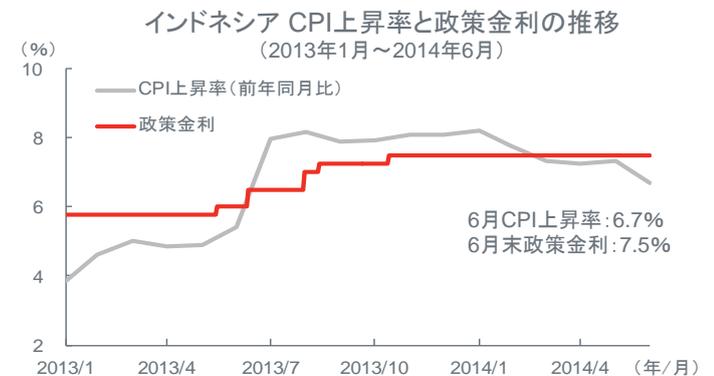
7月1日に発表された5月の貿易収支は0.7億米ドルの黒字と、4月の19.6億米ドルの赤字から小幅ながら黒字に転じました。5月の輸出は前年同月比-8.1%となったものの、輸入が同-11.4%と大きく減少したことが要因となりました。

また、同日発表された6月の消費者物価指数(CPI)上昇率は前年同月比+6.7%と5月の同+7.3%から大幅に鈍化しました。

インフレ率の落ち着きは見られているものの、インドネシア中央銀行(BI)は引続き金融引締め姿勢を維持し、経常収支の改善を目指すものと思われます。



※2013年12月末を100として指数化。インド：CNX Nifty指数、インドネシア：ジャカルタ総合指数、米国：S&P500、日本：東証株価指数、中国：上海総合指数を使用。



出所：上記のグラフはいずれもBloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

140703(05)

インドネシア債券と通貨ルピアは魅力的な水準

為替市場では、インドネシアルピアが年初来でアジア通貨の中で相対的に好調となっていますが、5月以降は弱含んでいます。インドネシアの外貨準備高が増加傾向*にあることや、インドネシアルピアが大幅に下落した昨年や2008年の世界金融危機当時と比較すると、インドネシアの経済ファンダメンタルズが改善していることから、現在のルピアの水準は相対的に割安であると考えています。*2008年末の516億米ドルから2014年5月末には1,070億米ドルと約2倍に増加しています。

債券市場は、通貨ルピア安や原油高を背景として弱含み(利回りは上昇)で推移しています。6月は、大統領選を前に売買を手控える動きが広がり低調となりました。しかし、月を通じて外国人投資家による堅調な資金流入が見られ、6月末時点におけるインドネシア国債の外国人投資家保有比率は35.7%と、依然としてインドネシア国債保有に意欲的な姿勢が確認されています。

当面の間、BIが政策金利を現状の水準に維持すると予想される中、インドネシア10年国債利回りは6月末時点で8.2%と、引き続き相対的に魅力的な水準にあると考えられます。

大統領選挙の動向に注目

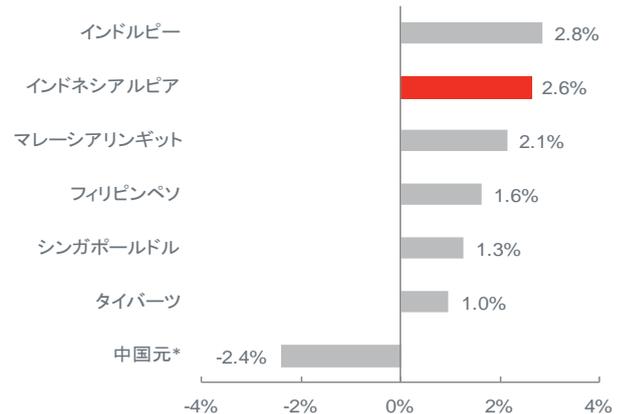
7月9日の大統領選挙を目前に控え、世論調査による二人の候補者に対する支持率の差は縮小しており、接戦の様相を呈しています。市場では、改革派と見られているジョコウィ氏が大統領に就任すれば、インドネシアの経済改革が本格化して経済成長が加速すると期待されています。一方、ジョコウィ氏の対抗馬であるプラボウォ氏は、力強い指導者として支持率を伸ばしています。両候補の政策綱領によると、両氏ともインフラ整備の推進や汚職対策、行政改革など、投資環境の改善を掲げており、10月20日の大統領就任後の新政権による政策への期待が集まっています。

インドネシア大統領選挙 今後のスケジュール

7月9日	大統領選挙(1回目投票)	
7月21日~22日	1回目投票の正式開票結果確定	* 正副大統領候補者ペアが少なくとも半数以上の州で20%を得票、かつ有効投票の過半数を獲得できなければ、決選投票へ。
8月26日~9月5日	*決戦投票キャンペーン	9月6日~8日はキャンペーン禁止期間。
9月9日	*決戦投票	
9月19日~21日	*決選投票の正式結果確定	
10月1日	国会議員就任	
10月20日	正副大統領就任	

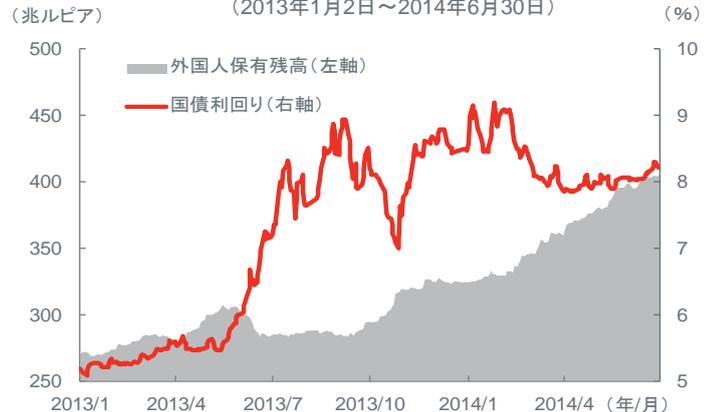
出所: 在インドネシア日本国大使館、各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

年初来のアジア各国通貨の騰落率(対米ドル)
(2013年12月末~2014年6月末)



* 中国元はオフショア人民元の騰落率。
出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

インドネシア国債の利回りと外国人保有残高の推移
(2013年1月2日~2014年6月30日)



インドネシア国債利回りは自国通貨建て10年国債利回りを使用。
出所: Bloomberg L.P.、CEICのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。